

令和4年(2022年)第2回
登録標識・路面標示基幹技能者講習
(路面標示)
修了試験問題

修了試験実施日：2022年11月11日

修了試験実施場所：富士教育訓練センター

登録基幹技能者講習実施機関：一般社団法人全国道路標識・標示業協会

注意事項

- ① 携帯電話は電源を切り鞆の中に入れてください。
- ② 試験問題は係員の指示があるまで開けないでください。
- ③ 解答用紙に受講番号と氏名を明記してください。
- ④ 正解と思う番号を解答用紙に記入してください。
- ⑤ 試験開始から30分が経過するまで及び試験終了10分前から終了時刻までは退出することができません。
- ⑥ 質問、体調不良、退室希望等は静かに挙手をしてください。
- ⑦ 試験問題は終了後に持ち帰ることができます。
- ⑧ 試験終了の合図があったら筆記用具を置き係員の指示に従ってください。
- ⑨ 解答は試験終了後約1週間後に全標協ホームページに掲載します。
- ⑩ 合格発表は令和4年12月23日に全標協ホームページに掲載します。

【基幹技能者一般知識】

問 1

「公共工事の品質確保の促進に関する法律(品確法)」の目的及び基本理念に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 現在の公共工事の品質確保
- ② 施工技術の維持向上とそれを有する者の中長期的な確保・育成
- ③ 適切な点検・診断・維持・修繕等の維持管理の実施
- ④ 災害対応を含む地域維持の担い手確保への配慮

問 2

建設キャリアアップシステム(以下「CCUS」という)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 技能者は、CCUS 情報を活用した能力評価とレベルごとの年収目安の明確化による賃金水準の相場感の形成が図れる。
- ② 下請業者は、自社が雇用する技能者数や保有資格、社会保険加入状況等が明らかになり、取引先からの信頼が得やすくなる。
- ③ 技能者の能力評価は 5 段階で評価される。
- ④ 元請や上位下請負は、初めて仕事をする下請業者の実力や技能者の資格の確認ができ、施工の安心感につながる。

問 3

登録基幹技能者に求められる能力に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 原価管理に係る基本的な知識を有し、常にコスト意識をもって行動する。
- ② 的確な分析力と判断力を有し、客観的な観点から最良の結論を導き出す。
- ③ 工事の実情に即した作業手順書を作成する。
- ④ 施工現場の直接の窓口は担当者に委任し、折衝、調整は登録基幹技能者が行い工事を円滑に推進する。

問 4

OJTに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 日常の仕事を通じて行う指導・教育が可能な目標・項目であること
- ② 部下が意欲をもって取り組めるものであること
- ③ 指導で大切なことは、指示どおりにやらせることではなく、自分で考え、工夫させ、それを試させ、その結果を評価することである。
- ④ OJTは、教育訓練計画を策定し効率的に行うため、全体的に指導することを基本とする。

問 5

建設工事の下請契約書について見積条件の提示等(建設業法第 20 条、第 20 条の 2)に関する次の記述のうち、違反とならない行為はどれか

- ① 元請負人が不明確な工事内容の提示により下請負人に見積りを行わせた場合
- ② 元請負人が、不明確な見積期間を設定し、下請負人に見積りをさせた場合
- ③ 元請負人が下請負人から工事内容等の見積条件に関する質問を受けた際、元請負人が未回答あるいは曖昧な回答をした場合
- ④ 元請負人が地下埋設物による土壌汚染があることの情報を下請負人に提供して見積りを行わせて契約した場合

問 6

労働安全衛生法第 30 条(特定元方事業者等の講ずべき措置)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 安全衛生協議会は、現場所長・統括安全衛生責任者が議長となり、現場の職長と災害防止に関する協議を行う。
- ② 朝礼、毎日の作業打合せ等で、元請業者と下請業者又は下請業者間の連絡及び調整を行う。
- ③ 毎日作業場所を巡視(パトロール)する。
- ④ 元請業者が下請業者の作業員に対し安全衛生教育を行う。

問 7

道路法及び道路交通法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 都道府県公安委員会は、道路を常時良好な状態に保つように維持し、修繕し、もって一般交通に支障を及ぼさないように努めなければならない。
- ② 道路管理者は、道路の構造を保全し、又は交通の安全と円滑を図るため、必要な場所に道路標識又は区画線を設けなければならない。
- ③ 道路管理者は、交通が危険であると認められる場合、区間を定めて、道路の通行を禁止し、又は制限することができる。
- ④ 国土交通大臣は、重要物流道路に災害が発生した場合、当該道路を管理する都道府県又は市町村の要請に応じて、当該道路の啓開を行うことができる。

問 8

道路交通法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路交通法の目的は、「道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図り、及び道路の交通に起因する障害の防止に資すること」と定められている。
- ② 道路交通法上の「道路」は、「道路法に規定する道路及び道路運送法に規定する自動車道」と定義されている。
- ③ 道路交通法上の「道路標示」は、「道路の交通に関し、規制又は指示を表示する標示で、路面に描かれた道路鋏、ペイント、石等による線、記号又は文字」と定義されている。
- ④ 道路法の規定により設置された区画線は、道路交通法の規定の適用については、標識令で定めるところにより、道路標示とみなされる。

問 9

道路標識、区画線及び道路標示に関する命令(以下「標識令」という)の変遷に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 区画線は昭和 35 年に 7 種類、以降「導流帯」が追加されて 8 種類となり、現在に至っている。
- ② 規制・指示標識は昭和 38 年、諸外国の標識、国連標識を参考としながら抜本的な標識令の改正が行われた。
- ③ 高速道路の案内標識は、昭和 38 年に自動車専用道の特性を考慮してその設置方法もシステム化された。
- ④ 昭和 44 年、路面電車の減少に伴って「電停」標示板が撤去されたため、「著名地点(114-A・B)」標識が新設された。

問 10

標識令に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 平成 4 年の改正では、横断歩道標示の側線のない標示が追加された際に、2 本の線による標示と道路鉤による横断歩道標示は削除された。
- ② 平成 20 年の改正では、規制標示「普通自転車歩道通行可(114 の 2)」が新設され、自転車の記号のみで自転車が歩道を通行できることとした。
- ③ 令和 2 年、道路法の改正により特定車両の停留施設が道路附属物として設置できることになり、「許可車両専用(325 の 5-A・B・C)」等の標識が追加された。
- ④ 令和 2 年、「歩行者横断禁止(332)」について、子どもでも読めるように「横断禁止」の文字を「わたるな」と平仮名に変更した。

問 11

「道路の移動等円滑化整備ガイドライン」に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 特定道路とは、重点整備地区内の主要な生活関連経路を構成する道路等で、都道府県知事はその路線及び区間を指定したものである。
- ② 道路管理者と都道府県公安委員会が連携しながら、最高速度 30km/h の区域規制と物理的デバイスとの組合せにより交通安全の向上を図ろうとする区域を「ゾーン 30 プラス」として設定した。
- ③ ハンプの構造は、高さは 10cm、平坦部の長さは 2m 以上を標準とする。
- ④ 歩道の有効幅員は、歩行者の交通量の多い道路は 3.5m 以上、その他の道路は 2m 以上と規定されている。

【施工管理・環境保全対策・作業計画・工程管理】

問 12

施工管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 施工管理とは、施工計画に基づいて社会的制約に対する対策や管理を行いながら施工を行い、工程、品質、原価などを管理することである。
- ② 工程と原価の関係は、施工速度を上げると原価は安くなるが、さらに施工速度上げると逆に原価は高くなる。
- ③ 適切に施工管理を行うためには、計画(Plan)、実施(Do)、検討(Check)、処置(Action)の 4 段階のサイクルを繰り返し実行することが基本となる。
- ④ 施工管理の主な内容は、品質管理、原価管理、工程管理の 3 つに分類される。

問 13

周辺地域の環境保全対策に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 建設工事における苦情は、騒音が 8 割、振動が 2 割となっている。
- ② 建設工事における大気汚染の発生源には、掘削や整地作業の粉塵、土砂堆積場所からの粉塵、土砂運搬車の積載物から飛散する粉塵、工事車両の排気ガス等がある。
- ③ 現場内から発生する廃棄物を排出するときは、「マニフェスト制度」を利用し不法投棄がないように適正に廃棄処分をする。
- ④ 地域住民への説明会は、工事着手前に地区自治会等を通じて行い、工事の目的、内容、環境保全対策等について説明し、地域住民との合意を図る。

問 14

作業計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 施工要領書は、工事開始後に予想される施工上の問題をどのように対処すべきかを事前に検討した上で作成する。
- ② 施工要領書の主な検討事項は、契約事項の理解、現場施工条件、現場ルールの理解、他業者との取り合い、施工手順、施工体制、資格免許等である。
- ③ 作業手順書は、定期的に見直す必要はないが、重要な事項について関係作業員に教育訓練する必要がある。
- ④ 作業手順書は、新入社員や未熟練作業員に安全で正確に早く教えるために必要なものである。

問 15

工程管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 1日当たりの平均施工量は、作業可能日数を工事量で割った数字である。
- ② 作業可能日数は、現地の地形、地質、気象等の自然条件を十分に調査し、対象工事の技術的特性を考えて算定する。
- ③ ネットワーク式工程表は、作業手順、作業の相互関係が分かり、工期に影響を与える作業を重点的に管理することができる。
- ④ バーチャート工程表は、縦軸に工種、横軸に工期をとった工程表であり、作業の流れが左から右に移行するため、分かり易く多くの工事で活用されている。

【原価管理】

問 16

原価管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 会社経営を継続するには、見積原価の管理、実行予算の作成及び予算実績管理が重要である。
- ② 見積書の材料費比率が高い工事においては、下請負人は法定福利費を削減することができる。
- ③ 契約工事に附帯して他業者との取り合いや設計変更による契約外工事が発生した場合は、元請負人と合意しながら進めることが重要である。
- ④ 原価要素は、建設工事では、材料費、労務費、経費及び外注費の4要素に分類するのが一般的である。

問 17

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 令和 2 年 4 月 1 日以降、民法の「瑕疵担保責任」は、「契約不適合責任」に文言が改められ、履行の追完(補修等実施請求)と代金減額請求等が規定された。
- ② 品質は、工種によって、その施工する内容に合わせた品質特性と品質特性値及びその測定方法、グレード等が定められている。
- ③ 「段取り八分」とは、工事を進める上で、事前の準備がいかに重要であることを表した言葉である。
- ④ 施工品質は、施工実態やコスト等を考慮して、無理なく実現できるように元請負人が決める品質である。

問 18

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① JIS では、品質管理を「買い手の要求に合った品質の物またはサービスを経済的につくり出す」と定義している。
- ② ISO9001 は、製品の品質を担保、保証するシステムを事前に文書化して、それに対して第三者から認証を受け、それを消費者に開示する仕組みである。
- ③ 散布図とは、時間の経過による品質特性値の変化を追うもので、管理限界線内にばらつきを管理するために用いる。
- ④ 特性要因図とは、品質上問題となっている特性(結果)と、それに関係する要因(原因)の因果関係を魚の骨のような形に整理した図である。

問 19

安全管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 平成 30 年の土木工事における死亡災害種別は、墜落、建設機械等、自動車等、飛来落下の順に多く、これら 4 つで全体の 72.9%を占める。
- ② 現場に設置した WBGT 測定器の測定結果が基準値を超え又は超えるおそれのある場合には、速やかに熱中症予防対策を実施する必要がある。
- ③ 平成 31 年 2 月 1 日に安全帯が「墜落制止用器具」に改められ、経過措置後の令和 4 年 1 月 2 日から完全施行となり、墜落制止用器具の使用規制が強化された。
- ④ ハインリッヒの法則とは、1 件の重大災害が発生する背景には、10 件の軽傷事故と 100 件のヒヤリ・ハットがあるとされる。

問 20

安全管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 重大災害とは、一時に 3 人以上の死傷者が発生した場合の災害のことである。
- ② 安全施工サイクルとは、現場の日常業務の中に作業前点検、安全パトロール、終業時点検等の安全活動を組み入れることである。
- ③ 労働災害が発生した場合、その会社は民事責任や行政責任を負うことがあるが、刑事責任は現場の責任者に限られる。
- ④ 登録基幹技能者は、特定技能外国人労働者の安全の確保についてもリーダーシップを発揮しなければならない。

【路面標示の設置】

問 21

路面標示の設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 路面標示は、一定の様式化された線及び文字、記号を路面に設置することにより交通の安全と円滑を確保し、併せて道路構造物等の保全を図るために設けることを目的としている
- ② 路面標示の様式、設置者の区分、設置場所、その他必要な事項は標識令に規定されている。
- ③ 指示標示には、「横断歩道」、「斜め横断可」、「自転車横断帯」、「右側通行」などがある。
- ④ 路面標示では、区画線は白色、道路標示は黄色のみが用いられている。

問 22

路面標示の種類に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「停止線(203)」は規制標示である。
- ② 「進行方向(204)」は指示標示である。
- ③ 「斜め駐車(114)」は規制標示である。
- ④ 「路上駐車場(108)」は区画線である。

問 23

路面標示の設置計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「車道外側線(103)」は、その線の外側から車線幅員をとる。
- ② 「車線境界線(102)」は、その線の中心から車線幅員をとる。
- ③ 中央帯は、1本の線の場合は線の中心、複線(実線2本)の場合はその線間の中心から車線幅員をとる。
- ④ 車線幅員は、2.75m、3.00m、3.25m、3.50mの4段階と定めている。

問 24

交差点部における路面標示の設置計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 停止線又は横断歩道がある場合、「車線境界線(102)」は停止線までとし、停止線より先の交差点内には設けない。
- ② 停止線及び横断歩道がない交差点の場合、「車道中央線(101)」、「車線境界線(102)」は、右折車線を設けない場合は交差点内も連続して設ける。
- ③ 左折車線は、交差点が鋭角な場合や、左折車と横断歩行者が多く、左折待ち車両が直進交通を妨害する場合に設置する。
- ④ 信号制御されて横断歩道がない交差点の場合、停止線の位置は右左折の通行を妨害しない範囲でなるべく後ろに設置する。

問 25

区画線に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 車道幅員片側 6m 以上の多車線の場合、中央線は車線境界線と区別するために二重線とする。
- ② ゼブラ標示等を設置できるほどの中央線は、できるだけ構造的なかさ上げを伴った中央帯を設置するのが望ましい。道路構造令では、中央帯の最小幅員として 1m(分離帯 50cm)側帯 25cm(両側)とする。
- ③ 「車道中央線(101)」(実線 1 本)の都市部の道路での標準値の幅は 0.15m である。
- ④ 「車線境界線(102)」(破線)の長さは、標識令の規定では、3.0m~10.0m である。

問 26

規制標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 標識標示主義とは、その場所において適用される交通に関する規制の内容は、道路標識又は道路標示によって示すことを原則とし、道路標識、道路標示による規制が法定の規制に優先して適用される。
- ② 「進路変更禁止(102の2)」は、交差点手前に設置する場合の規制区間は、おおむね 30m とする。ただし、「進行方向別通行区分(110)」と併せて実施する場合は、30m 以上の区間とすることができる。
- ③ 「停止禁止部分(107)」は、色彩は白色で寸法は状況に応じて異なる。
- ④ 「転回禁止(101)」を設ける場合は、原則標示で必要に応じ標識を設置する。

問 27

指示標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 路面電車の停留場に島状の施設がない場合、「路面電車停留場(209)」を設置する。幅及び長さは停留場の形状によって変更できる。
- ② 側線のない横断歩道に接して「自転車横断帯(201の3)」を設置する場合は、横断歩道との間は3cmの間隔を空けるものとする。
- ③ 「横断歩道(201)」の幅員は、原則として4m以上とする。ただし、歩道のない幅員の狭い道路で横断歩行者の少ない場所でも3mを限度とする。
- ④ 交差点及びその付近等において、交差する交通の流れを分離し、車両を安全かつ円滑に一定の進路に誘導する必要があるときには、「導流帯」のゼブラは原則として進行方向に対し 30° ・ 45° 又は 90° とする。

【路面標示の材料・施工】

問 28

路面標示用塗料に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 路面標示用塗料はそれぞれ特性が異なり耐久性や養生時間に相違があるため、環境や経済性を考慮して効果的な工法選択が必要である。
- ② 路面標示用塗料2種(加熱)の乾燥時間は3分以内と規定されている。
- ③ カラー(熔融)塗料は、着色顔料、体質顔料、ガラスビーズ、硬質骨材、充填用材料で構成されている粉体塗料である。
- ④ 貼付型加熱式路面標示材料の固着機構は、熔融接着させる物理的接着である。

問 29

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 1種 B(常温)は、有機化合物を主な揮発成分とするビヒクルを用い塗料中にガラスビーズを含まない塗料で施工する。
- ② 常温塗料は一般的には密度が大きいと施工距離が短くなる。
- ③ 常温塗料の塗膜の外観試験は、塗料に含まれる溶剤や添加剤がアスファルトを溶かすことによる路面標示の色の鮮明度や視認性の低下を調べる。
- ④ 常温及び加熱塗料の隠蔽率試験では路面標示の色の鮮明度や視認性の低下程度を調べる。

問 30

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 2種 B(加熱)の加熱残分は、揮発成分を除いた塗膜形成成分である樹脂、顔料、添加剤の量を調べ、揮発成分との配合の割合で判定する。
- ② 2種 B(加熱)の低温造膜性試験では、低温環境下で塗布及び塗料を乾燥させ、塗膜形成に異常がないか調べる。
- ③ 2種 A(加熱)の拡散反射率は、路面標示の視認性、白い塗膜の明るさを判定する。
- ④ 2種 B(加熱)のガラスビーズの固着率は、90%以上と規定されている。

問 31

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 3種(熔融)塗料の屋外暴露耐候性試験は、試料を12か月間屋外暴露し、割れ、剥がれ及び色の変化の程度を調べる。
- ② 3種(熔融)塗料の軟化点の高いものは、夏季塵土^{じんど}の付着が多く、車輪による圧延現象が生じる。
- ③ 3種1号(熔融)塗料の塗料中のガラスビーズの含有量は、15～18%に規定されている。
- ④ 3種(熔融)塗料の軟化点は、80℃以上である。

問 32

路面標示用ガラスビーズ(JIS R3301:2014)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 路面標示用ガラスビーズは、環境負荷物質に関する安心・安全な材料を提供するため、2014年にJISを改正した。
- ② 路面標示用ガラスビーズは粒度によって区分し、1号、2号、3号の種類に分類される。
- ③ 高屈折率ガラスビーズの屈折率が2.0以上になると、湿潤時に再帰反射性能が低下する。
- ④ 路面標示用のJIS規格ガラスビーズの材質は、ソーダ石灰ガラスである。

問 33

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)の施工に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 常温式工法と比べ加熱式工法では厚い塗膜が形成され、ガラスビーズの固着性に優れ、耐久性を有し速乾性である。
- ② 溶剤塗料の保管については、危険物第4類第1石油類に分類され、指定数量が200リットル以下と規定されている。
- ③ 2種(加熱)塗料は高粘度であるため、熱交換器を通してAは40℃～60℃、Bは50℃～80℃に加熱し、粘度を低くして塗装する。
- ④ 加熱式工法で使用機械や気温などの影響から原液で施工できない場合は溶媒で希釈する。

問 34

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)の施工に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 熔融式工法における熱劣化による品質性能の変化は、軟化点低下、圧縮強度上昇、耐候性低下、接着力低下などがある。
- ② 熔融式工法によるセメントコンクリート舗装への冬季の施工では、塗膜収縮が大きいのでそれに対応した品質管理が必要である。
- ③ 熔融式工法にはスリット式、噴射式、フローコーター式があり、路面標示の種類、施工量、施工場所などの条件に応じて工法を選択する。
- ④ 熔融式工法に使用される塗料は、熱可塑性で加熱熔融して施工し、塗膜形成後に温度が低下し固化する。

問 35

路面標示の点検・塗り替えに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 点検の第一の目的は、管理する路面標示の変状を早期に発見することであり、第二の目的は、必要な変状の程度の把握を行うことである。
- ② 積雪地域で融雪後毎年塗り直しが必要となる道路では、特に耐久性を考慮して工法を選択しなければならない。
- ③ 全国の道路総延長は膨大な量となっており、路面標示の点検には多大な費用と時間を要する。
- ④ 夜間の視認性を確保する必要があるところでは、塗り替えの際、ガラスビーズが多く混入された塗料又は高視認性路面標示材料を採用するのがよい。

問 36

路面標示の塗り替え基準に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 色差の測定は、道路標示黄色見本との色差 ΔE を測定する。
- ② 剥離率の測定は、摩耗、剥離、劣化等による塗膜の変色している部分の割合を測定する。
- ③ 目視評価ランク 5 の評価内容は「健全」であり、「標示全体が維持されており、摩耗が少なく、剥離が見られない」状態である。
- ④ 白の標示では、夜間の視認性に必要な反射輝度は $100\text{mcd}/\text{m}^2 \cdot \text{lx}$ を超える平均値が必要とされている。

問 37

路面標示の耐久性に関する全標協調査のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 路面標示の摩耗度は、大型車混入率が高いほど遅く進む。
- ② 耐久性調査を実施する際の調査箇所は、道路交通センサスの交通量が公表されているので、当該センサス対象路線から抽出することが望ましい。
- ③ 交通量による摩耗度の変化は、時間の経過と交通量に比例して摩耗が進んでいく。
- ④ 路面標示の経時変化による摩耗と耐久性についての調査データは、現在のところ少ない。

問 38

路面標示の消去及び標示調査に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 路面標示の消去は、作業時の騒音、振動、^{ふんじん}粉塵の発生などの問題もあるので、路面の状況、道路環境、工費等を考慮して工法を選択する。
- ② ブラスト工法は、比較的大型で特殊な設備を必要とするが、費用は低く抑えることができる。
- ③ 従来路面標示の塗り替え調査では、調査員の主観に左右されることが多く、調査結果のばらつきが指摘されている。
- ④ 路面標示の調査技術は、撮影や解析技術等の進歩により様々な手法が開発され、作業員が安全で効率的に、かつ定量的に調査が行える技術開発が始まっている。

問 39

法定外表示等の設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 法定外表示には、「統一を図る法定外表示」、「標準仕様を定める法定外表示」、「標準運用を定めるカラー舗装」、「その他の法定外表示等」がある。
- ② 「交差点クロスマーク表示」は、中央線のない道路が交差する十字路又は丁字路交差点で、道路の交差が不明確な場合には設置しない。
- ③ 新たな法定外表示を考案、設置する場合には、一見してその意味が理解できるものであり、標識令等に基づく道路標識等の様式と類似の形態(図柄等)としてはならない。
- ④ 「標準運用を定めるカラー舗装」には、「バスレーン関係のカラー舗装」と、「歩行者、自転車利用者等保護のためのカラー舗装」があり、色は市区町村ごとに統一を図っている。

問 40

法定外表示等の設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 法定外表示等の設置・管理等に当たっては、各都道府県警察と道路管理者とで設置内容や設置主体を含め調整を図ることとする。
- ② 「ドットライン表示」は、信号機のない交差点で車道外側線を交差点内まで延長し、交差点の存在や車両の通行部分を明示することが望ましい場合に設置される。
- ③ 「普通自転車等専用通行帯以外の自転車通行空間路面表示等」を設置する場合、自転車のピクトグラムは青色、矢羽根型路面表示は白色とする。
- ④ 「統一化を図る法定外表示」には、「環状交差点における路面表示」や「進行方向別通行区分の予告表示」等がある。

問題はここまでです。

受講番号

氏名

【基幹技能者一般知識】

1	2	3	4
1	3	4	4

【建設業法・安衛法】

5	6
4	1

【道路法・道路交通法】

7	8
1	2

_____/8

【標識令改正】

9	10	11
4	4	1

【施工管理・環境保全対策・作業計画・工程管理】

12	13	14	15
4	1	3	1

_____/7

【原価管理】

16
2

【品質管理】

17	18
4	3

【安全管理】

19	20
4	3

_____/5

共通 合計
_____/20

【路面標示の設置】

21	22	23	24	25	26	27
4	1	1	4	3	4	2

_____/7

【道路標示の材料・施工】

28	29	30	31	32	33	34
2	3	2	2	3	4	1

_____/7

【路面標示の維持管理・塗り替え基準】

35	36	37	38
2	2	1	2

【法定外表示の設置等】

39	40
2	3

_____/6

専門 合計
_____/20

総合計

_____/40